



力を合わせて土のう袋を使った魚道づくり



段差を解消し休場を作った



ナマズポーズで、ハイタッチーズ！



産卵のため川を遡上するナマズ

ナマズの産卵をお手伝い

なま^{そじょう}ず遡上^{そじょう}作戦 2025 (5/12)

河川^{そじょう}の環境や、水防の知識について学ぶ「なま^{そじょう}ず遡上^{そじょう}作戦 2025」が開催され、錦生赤目小学校の4年生28人が参加しました。指導した「NPO 法人 地域と自然ちよいまる」の中西 崇雄さんは「魚道を作ることによってナマズが産卵のために遡上しやすくなるんです。子どもたちが自然に触れるきっかけができて嬉しい」と語ります。

生徒たちは一生懸命土のう袋を作ったあと、川に入り魚道を設置。参加した芦田 静紀さんと福岡 すみれさんは「川に入って土のう袋を並べるのがとても楽しかった。ナマズの遡上に役に立ててよかった」と話してくれました。

ナバリスト岩木さんが介護体験を語る

蔵持市民センター出前講座 (6/19)

昨年10月号で「ナバリスト」としてご紹介した訪問美容師の岩木 寛人さんを覚えていますか？蔵持市民センターの出前講座で、若年性アルツハイマー病を患った母親の介護体験を語り、「さまざまな場面で介護技術を学べる場が必要。ただし、介護者だけが頑張るんじゃなくて、支え合うことが大切」などと訴えかけました。

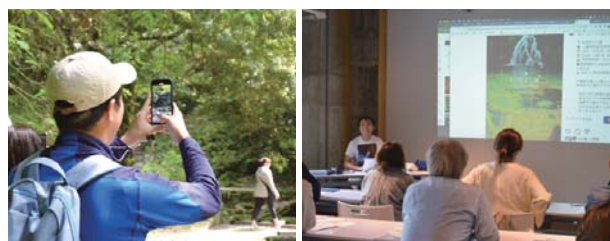
実は、この講演会、岩木さんの「認知症のマイナスイメージを変えたい」という思いを形にしようと、蔵持市民センターが企画したもの。「地域の皆さんの“伝えたい思い”が叶う場をつくりたい」とセンター職員の大久保さん。子どもたちに物づくりの大切さを伝えたいという建築士や、手作り料理が大好きな女性の料理教室など、今後も、一人ひとりの持ち味を生かした講座が繰り広げられます。



認知症の母親と演台に立った岩木さん。45人の聴衆が聞き入った



◀ 地区外の人でも参加できる多彩な蔵持市民センターの催しなどを要チェック！
(センター公式 Facebook)



なばりの "ええとこ" 動画で発信

Instagram動画撮影&編集セミナー (6/1)

三重県内の「ええとこ」を発信し写真集も出版している写真家ふがまるちゃん(Instagramのフォロワー数11万人!)を講師に招き、新緑の赤目四十八滝内を舞台に動画撮影と編集を学ぶセミナーを開催。市内外から22人が参加し、渓谷内を散策しながら、「徒歩〇分で…など視聴者が知りたい情報を」「川の中も撮影してみて」「最後は共感するワードで締めくくって」など、「バズる」動画のコツを教わりました。

ふがまるちゃんや参加者の皆さんが作成した動画は、「#名張感動」をつけて投稿されているので、ぜひ観てね。みんなで、なばりの「ええとこ」を見つけて、SNSで発信していこう！(関連P22)